Gallery 愛海詩 えみし

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。
◎ギャラリー愛海詩へいらっしゃる時は、そのご予定をお手数ですがお電話下さい。

桃蹊堂（備前焼）
二十六代・木村桃山 襲名披露 作陶展
伝統と革新

10月26日～11月７日

彩遊の号　No.40
愛海詩の会
会　　報
令和３年 10 月 10 日発行

編集発行人／ギャラリー愛海詩
佐 藤 睦 子
〒064-0821
札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX／(011)613－1112
WEBSITE
http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会　二十三周年の関

荒波を乗り越えて進もう…とする小舟のように、進むべき道を時に問いかけ目を凝らしながら何とか航海して来たような一年でした。今年の秋、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会は二十三周年を終え、二十四年目を迎えようとしております。これも偏に会員諸氏、皆さまの励ましと、賛同のおかげ…と心より感謝申し上げます。

この一年、難破しないよう良い方向で継続して行く事だけを主に考え、継続の法も思索し、限られた中でありましたが、行動し、語り、守って来たようにも思います。会報、彩遊のこの号を発行できる事をうれしく思います。それはイコール「作品展が出来る！」という事になるからです。そして、職人・作家の手技が輝くのは発表の場があり、ご縁がつながるということがあります。ギャラリー愛海詩では、このコロナ禍で一年の半分は作品展ができない状態でした。

愛海詩を取り巻く状況もさまざまありますが、皆さまの内にもさまざまな事がおありになっているとお察し致します。コロナ禍以前の何げない日常、仕事の仕方、会いたい時に何時でも会える、そういった事が、実はとても大切だと言う事、失う、出来なくなって解る気付き、そして、大切な人、物事、考え方の輪郭がよく見えて来たということもあります。

ギャラリー愛海詩、一つの関に於いて、備前焼、桃蹊堂の二十六代・「木村桃山氏の襲名披露作陶展」をさせていただく事は、私の仕事をする上での大きなよろこびです。皆さまも木村桃山氏と佳き出合いをしていただきたく願います。技・人柄共に王道を行く感があります。

二十三年前に思いを馳せますと、その時も広い海原に小さな舟を漕ぎ出したような、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会のはじまりでありました。人と作品との佳き出合いが、その時々の羅針盤となり、その事はこれからも変わりません。

揺らぐ自分の都合ではなく、動かぬ天の示しに舵を取り、耳を傾け、風を聴き、目を開き、本当の色を見ることの大切さを思うのです。

（佐藤　睦子）

創作中の木村桃山氏

プロフィール

1970　二十五代・木村桃山の長男として生まれる。
1994　名古屋学院大学外国語学部英米語学科卒業。
1996　マサーナ美術学校陶芸科専攻。（バルセロナ）
2004　第８回上海国際芸術博覧会に招待出品。
2010　瀬戸内国際芸術祭2010に参加。
2016　バルセロナにて茶道と陶芸の国際文化交流を開催。
2017　日本アルジェリア外交関係樹立55周年記念式典に招待。
　　国立書道博物館に作品所蔵。
　　パリ、グルノーブル大学、バルセロナ・カサ・バトリョ、在アルジェリア日本大使公邸にて作品展と講演会開催。
2018　日仏修好160周年記念事業（ジャポニスム2018）参加企画、エッフェル塔にて作品展示。
　　日西外交関係150周年記念としてバルセロナ総領事公邸にて作品展示。
2019　瀬戸内国際芸術祭2019に参加。
　　日本清興会展にて一般の部最高賞の新人賞受賞。（初出品初入賞）
2021　二十六代・木村桃山襲名（全国各地にて襲名記念展開催）
　　協同組合備前焼陶友会理事に就任。

所属団体
- 備前陶友会（理事）
- 備前陶心会（特別会員）
- 清興会（会友）
- 裏千家淡交会（青年部パスト全国委員、知新会会員）
- 日仏茶道交流会（副代表）

パブリックコレクション
- インド政府
- アグンライ美術館（バリ）
- 国立書道博物館（アルジェリア）
- 在アルジェリア日本大使館
- 在フランス日本大使館
- 在バルセロナ日本総領事館
- 在カンボジア日本大使館

和みのお茶会・お誘い

二十六代・木村桃山氏、ギャラリー愛海詩で３回目の作陶展ですが、今回は二十六代・木村桃山氏の札幌での「襲名披露作陶展」でもございます。皆様とのご縁を感謝しつつのお茶会をギャラリー愛海詩２階で下記の通りさせていただきます。

日　時　**10月29日**（金）、**30日**（土）、**31日**（日）（各日共14時～16時）
チケット代金　**2000円**（お茶、お菓子、木村氏のお話し、交流、おみやげ付）
人　数　**各日、先着４名**（早目のご予約をお願い申し上げます）

◈流派を問わず、初めての方でもお気軽に参加できる和やかなお茶会です。ホッとする有意義な時間をいただいて下さいますよう…。

木村桃山氏は10月28日（木）～31日（日）14時～17時までギャラリー愛海詩におります。

―桃蹊堂の歴史―

- 備前藩主池田侯より御細工人として藩御用を賜る。
- 東宮殿下に亀香合献上。（一九二六年）
- 昭和三年御大典瓶子の謹製。（一九二八年）
- 宮内省御用、大禮使御用を賜る。
- 閑院宮殿下御買上。（一九二九年）
- 昭和天皇花瓶御買上。（一九三〇年）
- 高松宮、同妃両殿下御来窯、献上。
- 平成御大典瓶子の謹製。（即位の礼）
- 靖国神社（九段）御神杯謹製。
- 伊勢神宮瓶子奉納。
- 伝統産業功労者として表彰。
- 通商産業大臣より表彰。

「ご挨拶～作品展によせて～」

桃蹊堂・二十六代　木村　桃山

二〇二一年も後半に入り、晩秋の彩りはいっそう美しく鮮やかです。オリンピックも終わり、日本のトップも代わり、変動の一年でありましたが、コロナの状況は今なお気をつけつつ…です。世界中の経済が疲弊して難しい状況の中でありますが、この度、ギャラリー愛海詩様のご厚意により三回目の個展を開催させていただくことになりました。愛海詩様が元気でいてくれて我々も発表の場があり、有難いことです。私は札幌での初個展の二〇一六年から五年を経て、活動範囲に変化がありました。

一番大きなことは桃蹊堂の代を替わり、今年年始に地元の百貨店にて襲名披露展を開催させていただきました。これもひとえに日頃より応援してくださっている皆様のおかげでございます。生まれ育った備前焼の郷である備前市伊部にて高校までは生活し、大学生になってから初めて県外で生活することになりました。美濃焼の産地である多治見と瀬戸焼の産地の瀬戸に挟まれた山奥で生活したおかげでより一層焼き物にハマってしまうことになりました。そのあとスペイン・バルセロナに二年間留学し、そこでまた日本文化の素晴らしさを再発見することになりました。裏千家茶道も陶芸と同時期に入門したので早いもので今年で陶歴も茶歴も二十七年になります。五十歳になったいま、備前陶心会も裏千家青年部も卒業し、今まで経験したことや、大変多くの仲間とのつながりが大きな財産になりました。

多くの出合いを糧にこれからは地域発展のため、備前焼発展のため、二十六代当主として、協同組合の備前焼陶友会理事の一人として労力を惜しまず尽くしていくつもりです。この二十六代というのも一五〇〇年初頭の甕が発見され、そこに桃蹊堂の陶印である三本井桁が刻まれていたことから、資料とあわせてさかのぼることでわかりました。日進月歩で人の世は変化、進化していってます。桃蹊堂の歴史を私の代でまとめていくということもひとつの役目だと考えて日々生活をしています。

このような時期ではありますが、今回もまた多くの愛海詩の会員の皆様をはじめ、北海道の皆様に新たなる作風をご高覧いただけますようご案内申し上げます。

お知らせ

10月28日（木）、午前11時からの約１時間、FMラジオカロス札幌78.1Mhz「木曜而今（ものこん）」の番組に二十六代・木村桃山氏が出演されます。（10月31日 日曜日午前11時から再放送、リッスンラジオのアプリでも聞くことができます）是非、お聞き下さいませ。

備前焼の郷で励んでいる木村桃山氏の技と人柄、そして本物の伝統美ある作品の数々を札幌の皆さまにご紹介できることを誇りに思い、このご縁をつなげたく思います。備前焼の将来を思い、日本そして、世界に発信して行こうと研鑽を重ねる桃山氏。作品、ご本人とも出合っていただけますよう、心よりお待ち申し上げております。

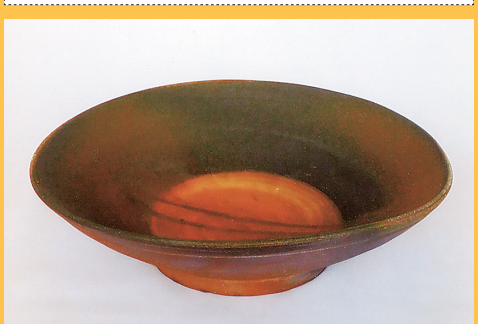
水指
（高さ23.5cm×直径20.0cm）
端正な形が宝珠を思わせます。中心胴に希望の灯り、そこから静かな物語が紡がれて行くような風情ある水指です。備前焼の水指は水が一際おいしくなります。

耳付花入
（高さ28cm×直径17cm×口径12cm）
轆轤の横の流れと縦の勢いのある線、そこに写し出させる円相、静と動、陰と陽、どんな花木でも受け入れ、その姿が余情を感じさせてくれます。

青備前抹茶盌
（高さ7.5cm×直径12.2cm）
鉄分の多い備前の土がほのかに青味を帯び火の衣を纏っているかのような抹茶盌です。そこには和敬静寂に誘われる時があります。

花入れ「守破離」
（高さ46.7cm×巾19cm×奥行17cm）
木村氏の代表作で、「守破離」シリーズは同じ作品は１つもなく、その時々の進化を見せてくれます。多くの方々が集う茶会でも使われ、花が活き、置いた場所の守・破・離の体が伝わってくるようです。

窯変徳利・ぐい呑
（ぐい呑サイズ・高さ5.5cm×直径6.7cm）
秋の夜長、このような徳利、ぐい呑で様々な時を楽しみたく思います。思索の時、語らいの時、深化の時、神韻の時。



深皿
（高さ8.0cm×直径27.5cm）
形もやきも申し分のない鉢です。緋色の月に風がそよいでいるような深皿、入れた料理やお菓子、目にも心にもおいしく、和む深皿です。

抹茶盌
（高さ7.6cm×直径14.3cm）
ほっこりとした手になじむ抹茶盌です。口径のかすかな稜線が自然を思わせ、静かな衒いのない形が手中の「清閑」を感じさせてくれます。

上記、写真の他にも茶道具、花入れ、日常使いの器など約50点を展示致します。珠玉の作品は今、この時にしか拝見できません。